

技術情報

長崎県病害虫防除所長

平成22年度病害虫発生予察技術情報第2号

トマト葉かび病の抵抗性品種における発生について

トマト葉かび病抵抗性遺伝子 *cf-9* をもつ品種における本病の発生が、県内で初めて確認されました。つきましては本病の防除対策について下記のとおりまとめましたので、指導の参考にしてください。

記

1. 発生の概要

平成22年4月、西海市の葉かび病抵抗性ミニトマト、品種「CF千果」(抵抗性遺伝子 *cf-9*) における葉かび病の発生が、県央振興局西海事務所により確認された。病原菌のレースについては明らかでないが、*cf-9* を持つ品種にも発病するレースの発生が、平成19年以降国内各地で確認されていることから、これらと同様に *cf-9* を打破するレースが発生したものとされる。

2. 病徴

はじめ葉表に不明瞭な淡黄緑色の病斑が現れ、やがて葉裏に灰黄色から緑褐色のピロード状のかびを生じる。病斑は次第に拡大して、円形あるいは葉脈に囲まれた不整形となり、かびの色も灰褐色から灰紫色に変わる。症状が進むと葉全体がかびで覆われ、ひどい場合には葉が枯れ上がる。レースや品種による病徴の違いは無い。

なお、県内のトマトおよびミニトマトでは、葉かび病と病徴が似たすすかび病やうどんこ病も発生しているので留意する。

3. 葉かび病菌のレースについて

葉かび病菌は、抵抗性遺伝子に対応してレースが分化している。葉かび病抵抗性遺伝子は6種類あり、国内で発生が報告されている葉かび病菌のレースは9種類である(表1)。

なお、県内で栽培されている葉かび病抵抗性品種の抵抗性遺伝子は表2のとおりである。

表1 トマト葉かび病抵抗性遺伝子と国内レース分化(飯田、2009)

抵抗性遺伝子	葉かび病菌レース								
	0	2	4	2.4	2.9	4.9	4.11	2.4.11	4.9.11
なし	×	×	×	×	×	×	×	×	×
<i>cf-2</i>		×		×	×			×	
<i>cf-4</i>			×	×		×	×	×	×
<i>cf-5</i>									
<i>cf-6</i>									
<i>cf-9</i>					×	×			×
<i>cf-4, cf-11</i>							×	×	×

: 抵抗性、 ×: 感受性

表2 県内で栽培されている品種の葉かび病抵抗性遺伝子

種類	品種名	抵抗性	抵抗性遺伝子
トマト	CF桃太郎はるか		<i>cf - 9</i>
	桃太郎コルト		<i>cf - 9</i>
	りんか409		<i>cf - 9</i>
	麗容		不明
ミニトマト	CF千果		<i>cf - 9</i>
	サンチェリーピュア		<i>cf - 5</i>

種苗会社HP及びカタログを参照した。

4. 防除対策

- (1) 抵抗性品種を栽培している圃場でも、葉かび病の発生に注意する。
- (2) 発生を未然に防ぐため、耕種的防除を中心に基本的な対策を励行する。
 - ア 多湿条件下で発生しやすいので、換気を良くするなど過湿防止に努める。
 - イ 不要な下葉などは早めに取り除き、施設外へ持ち出して処分する。
 - ウ うどんこ病やすすかび病の防除も兼ねて、予防的な薬剤散布を行う。
- (3) 本病の潜伏期間は2～3週間と長く、多発後は防除が困難なので、発生が確認された場合には初期防除を徹底する。
- (4) 本病は葉裏から感染、発病するため、薬剤散布は葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。
- (5) 薬剤の感受性低下を防ぐため、同一成分及び同一系統薬剤の連続使用を避け、ローテーションで使用する。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027